

うぶね

ubune

Take free
57

2024年10月発行

特集

岐阜県脳卒中・心臓病等 総合支援センター



地域とともに、
脳卒中・心臓病の
予防と支援を。

- 最先端医療
- クローズアップ!
- 管理栄養士のけんこう食卓
- 自宅でカンタン!健康体操
- Q&Aコラム ○○って何?



特集

岐阜県脳卒中・心臓病等 総合支援センター



厚生労働省の「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」に選定され、
2024年6月に設置された『岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター』。
県を代表するセンターとして、さまざまな支援や連携が期待されています。

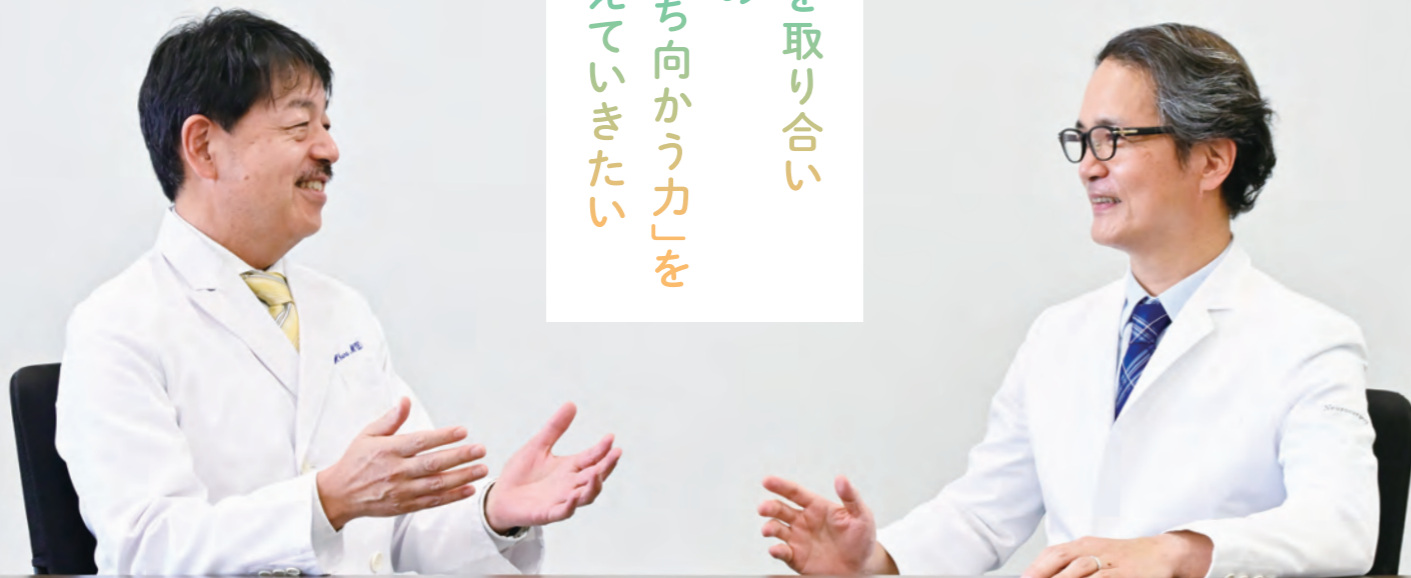
岐阜県脳卒中・心臓病等
総合支援センター 副センター長

大倉 宏之
循環器内科 教授

岐阜県脳卒中・心臓病等
総合支援センター センター長

出雲 剛
脳神経外科 教授

地域と手を取り合い
患者さんの
「病気に立ち向かう力」を
力強く支えていきたい



2024年6月、県を代表する 支援センターとして開設

脳卒中や心臓病は、ある日突然発症するケースがほとんどです。心の準備ができていない状況で治療が始まり、退院後の生活が一変する人も多くいます。今もたくさんの患者さんが、後遺症も含めた何らかの症状に不安を抱えながら生活しています。「岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター」は、そうした患者さんやご家族を支えることを柱に、他機関との連携や啓発活動、情報発信など包括的な支援を行

なっています。「脳卒中センター」と「循環器センター」、そして「総合患者サポートセンター」が連携し、当院の患者さんだけでなく広く県全体を対象にした「岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター」として、今年6月にスタートしたばかりです。

当センターの事業内容は多岐にわたります。内部的には医療従事者に向けての研修・勉強会の開催、地域の医療機関との連携や活動支援などありますが、一般の皆さんに直接関係する内容としては、「相談支援窓口」の開設や、県民向けの公開講座や情報発信といった「普及啓発活動」が挙げられます。

脳卒中や心臓病に限らず、どんな病気にもいえることですが、早期発見や早期治療がとても重要です。そのため正しい情報にアクセスできること、早期発見のための知識を身につけてご自身や家族の異変に気づくことも大切です。

専門家による相談支援窓口 悩み解決の“道しるべ”に

当センターは、担当診療科の医師はもちろん、看護師や薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種によるチームで構成されています。

今年8月、患者さんやそのご家族を対象とした「相談支援窓口」を開設しました。病気や診療内容については従来通り医師へ直接相談していただきますが、それ以外の不安や心配事について、対面や電話、Webなどで気軽に相談することができます。

患者さんは、脳卒中や心臓病を発症した直後の急性期はもちろん、その後の回復期、自宅に戻ってからの生活期まで、長いスパンで病と向きあっていくことになります。また、発症による日常生活動作(ADL)*の低下は、「退院後の生活が心配」「仕事が続けられないかもしれない」といった、生活面・就労面の不安を招きます。しかし、そうした悩みに戸惑いながらも誰に相談していいかわからず、一人で抱え

込んでしまうケースが多いのも現状です。「病院で先生に聞くほどではないかも…」と、医療機関での相談をためらってしまう人もいます。

今回開設した相談支援窓口は、リハビリや服薬、食事に関する相談から、介護・福祉サービスの利用、医療費についての心配事、そして在宅療養や職場復帰に向けた悩みまで、さまざまな相談をお受けし、解決に向けてどうすればいいのか、その糸口をつかんでいただくための窓口です。患者さんからの相談を直接お聞きするのは、当センターの医療ソーシャルワーカー(MSW)。小さな不安や悩みの種を見逃すことなく聞き取り、適切な支援や治療など、次のアクションへつなぎます。まずはMSWと一緒に、悩み解決の“道しるべ”を見つけていきましょう。また、センターとしてはそれぞれの病気に関する幅広い相談に答えられる専門家「脳卒中療養相談士」や「心不全療養指導士」の育成にも注力し、チームの底力をさらに上げて支援を強化していきたいと考えています。就労支援や両立支援については、産業保健センターなどの関係施設と連携し、両立支援コーディネーターとの協力体制を築きながら、患者さんにとって最適な解決策を、一緒に見つけていくお手伝いをしていきます。

※日常生活動作(ADL)…日常生活を送るために最低限必要な日常的な動作(Activities of Daily Living)のこと。主に、起居動作、移乗、移動、食事、更衣、排泄、入浴、整容動作を指す。

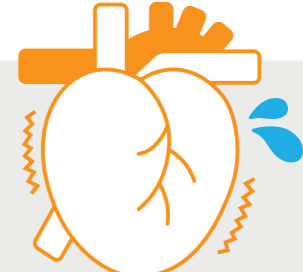
日本人の死因
第4位



脳血管疾患 — 脳卒中とは —

脳卒中は突然起こる脳疾患で、「急性脳血管疾患」を意味します。主に、脳梗塞、脳内出血、クモ膜下出血の3つの病型があります。命の危険があるのはもちろん、一命を取り止めても後遺症をきたすケースも多く、発症を機に要介護となることもあります。

日本人の死因
第2位



心血管疾患 — 心臓病とは —

虚血性心疾患(狭心症や心筋梗塞)、不整脈、弁膜症、心筋症、大血管疾患や末梢動脈疾患、心不全といった、心臓に関する病気の総称をいいます。日本人の死因の第2位を占める心臓病。高齢化と生活習慣の変化により、患者数は増加傾向にあります。

それぞれの地域と共に 「オール岐阜」で取り組む

当センターは厚生労働省のモデル事業として、岐阜県と連携して運営しています。決して当院だけの組織ではなく、岐阜県民に広くひらかれた場であることを、より多くの方に知っていただきたいと思っています。地域住民を対象とした普及活動としては、セミナーなどの県民公開講座や小中学校での普及啓発活動のほか、公式Webサイトの開設や情報提供など、情報発信活動にも注力していきます。

岐阜県はとても広大で、医療圏も東西南北に広く分かれています。当センターが県の中心的存在を担っていくことは確かですが、県内の全ての患者さんに直接アプローチすることは物理的に不可能です。今後は県内の各医療圏の基幹施設にもその一端を担っていただき、双方向の情報共有を重ねて地域の医療機能を把握したうえで、患者支援体制を構築していくことが求められると思います。そうした基幹施設の中核機関として当センターが十分に機能していけるよう、医療機関や各関連施設とこれまで以上に密な連携を取っていきたく考えています。センターの設立はゴールではなく、患者さんをもっと支援していくための“土

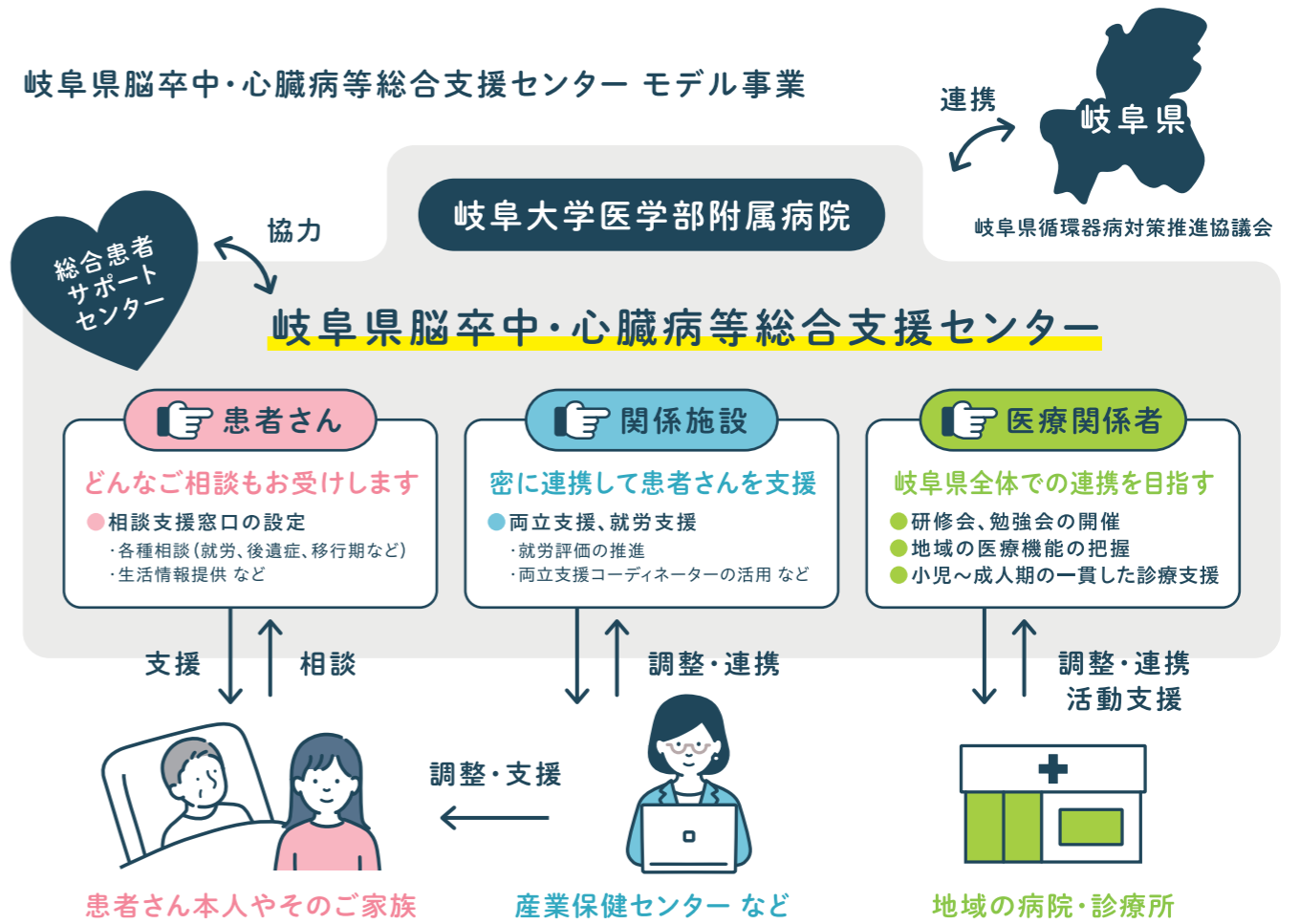
台”が完成したということです。各地域と互いに力を合わせながら、「オール岐阜」で取り組んでいきます。

患者さん本人の 「病気に立ち向かう力」を支援する

人は、突然重い病が降りかかってくると、想像以上に弱気になってしまうものです。はじめてのことで「どうしていいかわからない」「解決策がない」と感じると、途端に負のスパイラルに陥ってしまい、本来持っているはずの「病気に立ち向かう力」を、どこかに置いてきてしまうのかもしれない。この事業の根幹は、患者さんが「病気に立ち向かう力」を発揮できる環境や心境を支えていくこと。不安や悩みを一つずつ解消していくことで、きっと「もう少しがんばってみよう」「きっと回復してみせる!」という勇気が変わっていくはずです。

また、患者さんの中には、元気そうに見えても実はかなり行動制限があり、以前のように働くことができない人もいます。職場の理解も得られにくく、思い悩んでしまい、まだ働きたいのに諦めざるを得ない、という人も少なくありません。でもそれはもしかすると、周囲に正しい知識を持った人がいて、支援していく体制が

岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター モデル事業



あれば、患者さんは治療と両立しながら働く道もあったのかもしれませんが。そういった意味でも当センターでは、脳卒中や心臓病という病気について理解を深めてもらうための公開講座の開講やセンター発の情報発信も、積極的に続けていきたいと考えています。

「回復したい!」という想いから湧いてくる力の大きさは、年齢や体力的なものだけではありません。周囲が患者さんやご家族の不安に寄り添い、解決に向け

と共に進むこと、悩みを知って支えてくれる人がいるという事実が、前を向いて進む力になると思います。患者さんご本人が「病気に立ち向かう力」を持続けられるよう、我々はさまざまな人たちと手を取り合い、地域全体としての患者支援体制の充実を図っていきます。患者さんやそのご家族の“心”にどこまでも寄り添いながら、しっかりと力強く支えていける存在になることが、私たちの使命の一つだと考えています。

REPORT

県民への普及啓発活動として 「健康ハートの日2024 in GIFU」を開催

「健康ハートの日(8月10日)」にあわせて「岐阜の心臓病診療を知る ～心臓病診療の今までとこれから～」を開催しました。大倉先生による講演会「ここまで進んだ狭心症の診断と治療」、参加希望者の実演参加による心肺蘇生講座、座談会などが行われました。「チームで行う、心臓カテーテル治療最前線」と題したデモンストレーションでは、ステージに手術室内そっくりの状況が準備され、術者らが登場。参加者らが見守る緊迫した雰囲気の中、手術の一部始終を再現し、会場からは拍手が湧き起こりました。



▲講演の様子(じゅうろくプラザにて)



▲脳卒中や心臓病についてのパネル展示

市民公開講座

「わかりやすい脳卒中のおはなし」

日時:11月23日(土・祝) 13:30~15:30
場所:岐阜県総合医療センター 講堂

日本脳卒中協会との共催で、市民公開講座を開催します。参加申し込み不要、お気軽にご参加ください。希望者向けに個別相談(要予約)も行います。

入場無料

相談支援窓口

県内在住の、脳卒中・心臓病に対してお困り事やご相談がある患者さん、またはご家族の方は、電話、Web、面談にてお気軽にご相談ください。

詳しくは下記Webサイトにアクセスしてください。

相談無料
1回20分程度



岐阜県脳卒中・心臓病等
総合支援センター
GIFU STROKE AND CARDIOVASCULAR
DISEASES SUPPORT CENTER

TEL 058-230-7049
(平日9:00~17:00/休診日・土日祝を除く)

URL <https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/gifu-noushin-center/>





耳鼻咽喉科・頭頸部外科長 病院長補佐
小川 武則 先生

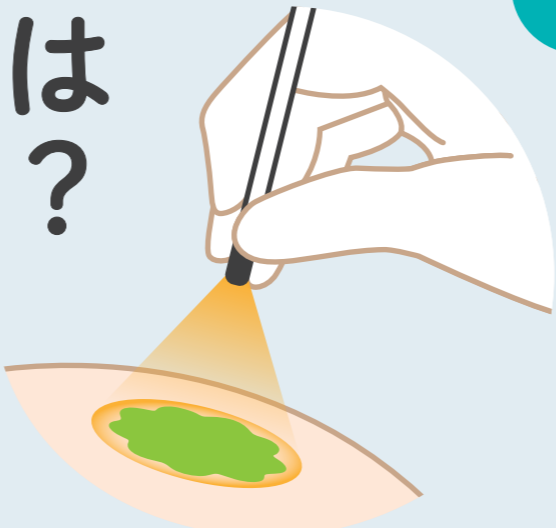
1988年金沢大学医学部卒業後、東北大学病院や宮城県立がんセンター病院などを経て、2020年岐阜大学医学部附属病院へ。日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医、日本気管食道科学会気管食道科専門医。

頭頸部がんの再発と闘っていく
新たな治療の選択肢として
期待しています。

がんの新たな治療法として注目を集める「光免疫療法」。日本では「頭頸部がん」にのみ適応され、県内でもまだ症例数は少ない治療法です。耳鼻咽喉科・頭頸部外科長の小川先生に、詳しくお聞きしました。

最先端
医療+

新しいがん治療 光免疫療法とは？

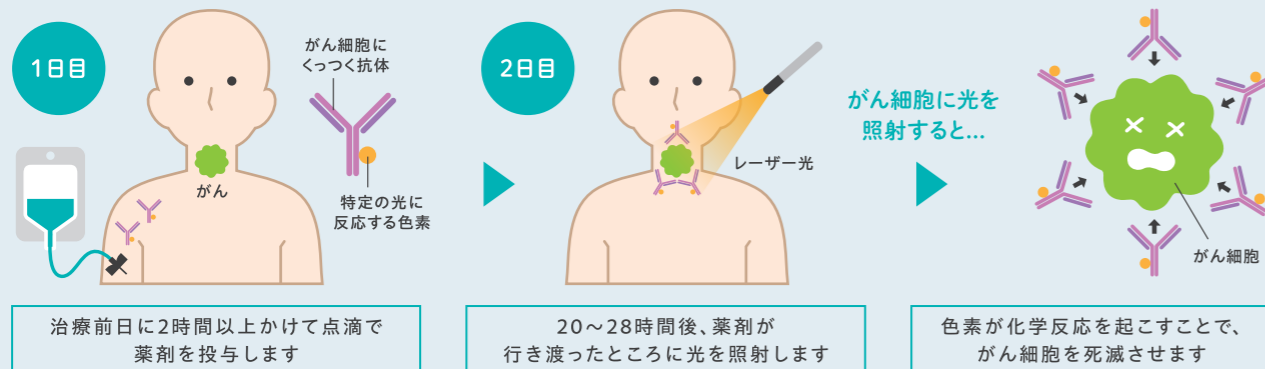


Question 1 「光免疫療法は、どのような治療法なのか教えてください」
光に反応する薬を投与して光を当てることで
がんだけを狙い撃ちする、新しい治療法です。

光免疫療法は「薬剤を投与したあとに、光を当てる」治療法で、日本では頭頸部がん^{とうけいぶがん}で行われています。がん細胞のみにくっつく抗原を点滴投与し、その抗原ががんが集まってから光を当てることで、がん細胞だけを破壊して死滅させる仕組みです。すべての頭頸部がん患者が対象となるわけではなく、まずは手術や放射線療法が優先されます。再発や切除不可など、従来の治療法の選択肢では助けられなかった人を救えるかもしれない、頼もしく新しい選択肢だと、私は感じています。

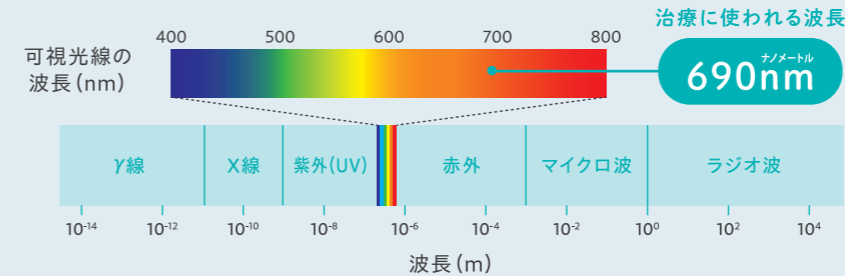
※頭頸部がん…顔面から首（鎖骨から上）の範囲に発生するがんのこと。
鼻、口、のど、上あご、下あご、耳などのがんを指します（脳、眼球は除く）。

光免疫療法のしくみ



Question 2 「光免疫療法の副作用は？治療後に患者さんが注意すべきことはありますか」
治療後に日光や室内灯などに当たること
「光線過敏症」を起こす可能性があります。

治療に使うレーザー光はX線やγ線とは異なり、日光などにも反応することから、治療後は「光線過敏症」に注意が必要です。体内の薬剤が光に反応する期間が退院後も続くため、強い光に当たると皮膚が赤くなったり、皮膚や眼に痛みが出る可能性があります。入院中は光を遮った暗い部屋で過ごしていただきます。投与後4週間は直射日光に当たらないように気をつけ、退院後も外出を極力避けてカーテンなどで自然光を遮り、室内照明もできる限り暗くした部屋で過ごしましょう。光線過敏症以外の副作用には、がんがあった部分の痛みや腫れなどがありますが、この治療法は正常細胞へのダメージが少ないため、免疫機能の低下などは考えにくく、比較的生活の質を維持しやすい治療法ともいえます。



治療に使われるレーザー光の波長は690nmで、人間の目で見ることができない光の範囲（可視光線：380～780nm）内にあります。レントゲンのX線や放射線治療のγ線とは異なり、人体への影響が少ないため、正常細胞はダメージを受けません。

Question 3 「これからの光免疫療法に期待していることはありますか」
光を照射したがん細胞を破壊するだけでなく
免疫を活性化する効果の波及にも期待しています。

光免疫療法は今も研究中の治療法ですが、直接がん細胞を破壊するだけでなく、がんに対する免疫を活性化する可能性についても期待されています。これが認められると、転移がんへ効果を発揮することも夢ではないと思っています。また、光免疫療法と「免疫チェックポイント阻害薬[※]」の併用により、免疫ががん細胞を攻撃する力を保つ（ブレーキがかかるのを防ぐ）効果も期待されており、今世界中で臨床試験が行われています。当院はどの診療科においても、信頼のおける医療チームが形成されています。専門医らが職種の壁を越えて一つのチームとなり、こうした新しい治療法も含む多くの選択肢の中から、患者さんにとって最善の方法を一緒に考えながら、共にがんを闘っていきたくと考えています。

※免疫チェックポイント阻害薬…免疫ががん細胞を攻撃する力を保つ薬。がん細胞がリンパ球などの免疫細胞の攻撃を逃れる仕組みを解除する働きがあります。

「世界頭頸部がんの日」プロ野球の始球式に、小川先生が登板しました！

新たながん治療に向けた開発を進める楽天メディカルが、「世界頭頸部がんの日（7/27）」に、楽天イーグルスの一軍公式戦で「楽天メディカル頭頸部がん克服デー」を開催。日本頭頸部癌学会の代表として、小川先生が始球式に登板しました。さすが元ピッチャー、会場が湧き立つナイスピッチングでした！



▲2024年7月27日 楽天モバイルパーク宮城

NEWS!



クローズアップ!

「医療ソーシャルワーカー」

vol.5

岐阜大学医学部附属病院で働くさまざまなスタッフの仕事内容を紹介합니다。



患者さんの「心」に寄り添いながら
人と人をつなぐ、架け橋になりたい。

岐阜大学医学部附属病院
医療ソーシャルワーカー
難病診療連携コーディネーター

のぐち ふみお
野口 史緒 さん



病気や生活への不安や悩みを 支援の輪につなげていく役割

人は誰でも、病気や事故、加齢などによって、これまでと同様の生活や仕事ができなくなったり、生活が立ち行かなくなったりと、さまざまな困難に遭遇する可能性があります。そのような、想像もしていなかった問題に直面したときの相談相手が、医療ソーシャルワーカー(MSW)です。私たちは、患者さんの事情はもちろん「心」にも寄り添いながら、利用できる社会保障制度やサポートできる専門職や事業所がないか、さまざまな解決策を共に考えています。MSWは、ご本人がもっている力を大切に、人と制度、人と人、人と社会の「つなぎ

役」となる福祉の専門職です。

MSWの主な仕事のひとつに「退院支援」があります。患者さんの入院前からお話をお伺いし、各診療科の医師や看護師らとカンファレンスを行い、退院後の生活を見据えて安心して治療を続けられるようお手伝いをしています。治療費や家族のサポート体制のことはもちろん、退院後も仕事や学業を続けやすいよう、生活相談にも対応しています。入退院を繰り返している方や、自宅療養をしながら長く通院している方など、長期療養の患者さんに対してさまざまなサポートをしています。



▲カンファレンスの様子。患者さんの入院1週間以内に話し合いを行います。

多機関・多職種連携で やさしくつなぐネットワークを

岐阜大学医学部附属病院は「難病診療連携拠点病院」に指定されています。医療機関と行政、関連機関による難病医療ネットワークを構築するため、私は「難病診療連携コーディネーター」として事業の企画運営などにも携わっています。当院のような急性期病院は、治療の早い段階で医師・看護師・薬剤師・リハビリ専門職・栄養士が連携して対応できるのが強みです。一方、在宅医や訪問看護をはじめとした地域支援者は、何度も訪問を重ねながら細やかに患者さんの生活に寄り添っていけることが強みです。そうした多機関多職種をつなぐことで連携体制を整え、それぞれの弱みをカバーし、強みを生かすことができます。特に難病支援については疾患の進行に合わせて、連携機関の長所を発揮できるようなネットワークづくりを目指して



▲9名の医療ソーシャルワーカーが、全診療科の相談に対応しています。

います。私は以前、後方支援医療機関や地域支援者側にいた経験がありますが、今改めて、大学病院と地域の連携の重要性を感じています。また、支援者向けに研修会などの啓発活動をしていくことも、「難病診療連携コーディネーター」の重要な仕事のひとつだと考えています。

患者さんが一人で悩みを抱え込んだり、孤立したりしないために、親身になって寄り添えるよう、日々努めています。私たちMSWにできることは、その困難を乗り越えるための支援の糸を「つなぐ」こと。患者さんが元の生活に戻ったときに頼れる人たち、例えばケアマネジャーや在宅医、訪問看護師、関係機関のスタッフなど、支援者のネットワークがあることは、大きな支えになると思います。患者さんが助けを求めてふっと手を伸ばした先に、いつでもその手をやさしく取ってくれるような輪をつくっていくことが、目標であり使命だと思っています。

岐阜県難病医療 連絡協議会事務局

難病患者さんに関わる地域支援者のネットワークづくりのために、調査研究についての検討、研修会の企画開催などを行っています。「難病診療連携コーディネーター」としての活動も野口さんの大切な仕事の一つです。



管理栄養士の けんこう 食卓

旬のさつまいもで、 食物繊維をおいしく摂ろう さつまいものキッシュ

管理栄養士
かわはら さよ
河原 紗代さん

岐阜大学医学部附属病院の管理栄養士が
おすすめする栄養レシピをご紹介します。

栄養のポイント

さつまいもは、いも類の中では最も食物繊維が豊富に含まれています。食物繊維は便秘改善にも効果がありますが、血糖値の急激な上昇を抑え、コレステロールの吸収を抑制する効果が期待できます。実はビタミンCも多く含んでおり、ストレスから体を守る働きをしてくれますよ。



エネルギー
335
kcal
(1人分)

【栄養成分(1人分)】

たんぱく質	脂質	炭水化物	食塩相当量	食物繊維
8.1g	12.6g	48.9g	0.6g	5.4g

【材料(2人分)】

- さつまいも …… 1本
- ウインナー …… 2本
- 卵 …… 1個
- バター …… 10g
- しめじ …… 60g
- ミニトマト …… 2個
- 玉ねぎ …… 100g

【作り方】

- さつまいもを洗い、ぬれたままキッチンペーパーに包み、さらにラップで包む。
- ①を電子レンジ(600w)で3~4分程度加熱する。
竹串を刺してやわらかくなっていればOK(硬ければさらに加熱する)。
そのまま粗熱を取る。
- 玉ねぎ、しめじ、ウインナーを、食べやすい大きさに切り、
バターを熱したフライパンで炒める。
- ③が冷めたら、卵を割り入れてよく混ぜる。
- ②のさつまいもの中をくり抜き、そこへ④の卵液を入れる。
- 180℃に予熱しておいたオーブンで、30分加熱する。
- お皿に盛り付けて完成。
(くり抜いて余ったさつまいもは、いもきんとんやサラダにしてみてください)

Recipe 2

キノコあんかけ
ごぼうつくねの



レシピは
こちらから!

管理栄養士
いとう けいた
伊藤 恵多さん



自宅で
カンタン!

健康 体操

今回のテーマ

食事をもっと楽しむためのえんげ体操

誤嚥性肺炎は、嚥下困難を抱える人にとって特にリスクが高い疾患です。このため、肺炎を予防するために、胸郭可動域訓練を行うことが重要です。呼吸を深くし、胸郭の動きを促進することで、呼吸機能の強化を目指します。



胸を広げる
イメージで

息をゆっくり
吐きながら



ココをきたえる!

- 深く息を吸いながら、腕全体を横に広げます。
- 息をゆっくり吐きながら、腕を前方の位置にします。
- 1と2の動作を、10回繰り返します。

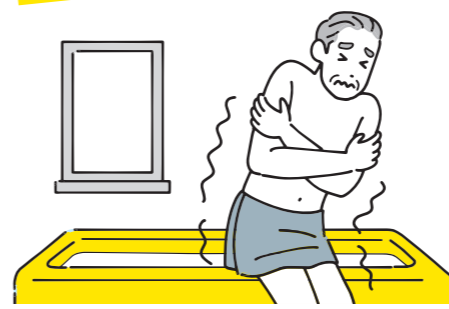
肺炎予防体操 (胸郭可動域訓練)

POINT

肩の力を抜いて、ゆっくりと深い呼吸を意識し、胸の部分の広がりを感じながら行いましょう。

※痛みなどがあればすぐに運動を中止し、医師や言語聴覚士に相談しましょう。

Q&A コラム 〇〇って何?



教えてくれたのは
かきの よしのり 高次救命
柿野 圭紀先生 治療センター

今回のギモンは…

ヒートショックってなに?

A 暖かい部屋から寒い部屋へ移動するときに
急激な温度変化により生命が危機に瀕することです。

例えば、暖かいリビングから寒い脱衣所へ移動するとき、血圧が急上昇します。さらに熱い湯船に入ると血圧が急降下し、失神や不整脈、脳梗塞や心筋梗塞などの循環器病を引き起こします。転倒時に骨折や打撲などの外傷を負ったり、浴槽内で意識を失って溺水したりすることもあり、生命に関わります。特に高齢の方、生活習慣病や不整脈などの疾患がある方は注意が必要です。飲酒後の入浴、41度以上の熱すぎる湯温、10分以上の長時間の入浴は避けましょう。

STAFF募集

当院では現在、
下記スタッフを募集しております。

ドクタークラーク

(医療事務
作業補助者)

※医師の事務サポート



ナースアシスタント

(看護補助者)



その他職種も募集中!
詳しくはこちら!▶

岐阜大学病院HP 採用情報



THANKS FOR THE DONATION

ご寄附のお願い



岐阜大学医学部附属病院では、
教育・研究・医療の推進のため、寄附金を受け入れています。
皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お申し込み方法

「寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、経営管理課管理係までご提出ください。
お申し込みいただいた方に、振込依頼書をお送りしますので、全国の金融機関の窓口よりお振込みをお願い致します。

※振込手数料は当院が負担します



寄附金申込書
ダウンロード

お問
合せ

岐阜大学医学部附属病院 経営管理課管理係

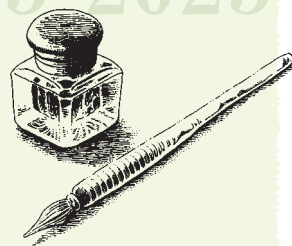
☎ 058-230-6011

✉ hpkanni@t.gifu-u.ac.jp

岐大病院 150年 History

150th Anniversary

2025年8月、岐阜大学医学部附属病院は
おかげさまで150周年を迎えます。
「うぶね」ではその記念すべき節目に向けて
当院の歴史を全6回シリーズでご紹介します。
地域の皆様に寄り添って150年。
私達はこれからも信頼と安心の岐大病院であり続けます。



第4回 移転統合の断念と、司町キャンパスの拡充

1960年代、国立移管と時期を同じくして、岐阜大学では各地に散らばる学部を一つのキャンパスに統合する計画が進んでいました。しかし、当時の状況では移転完了に最低でも10年を要すると見込まれ、現状設備の整備の方が喫緊であるとの判断から、大学の移転統合は医学部・附属病院を除いて行われることとなりました。移転は見送られましたが、岐阜市司町地区の整備・増築は着々と進み、岐阜大学病院は岐阜市の中心部で地域の要望に応えるべく発展していきました。



▲司町キャンパス(現在の岐阜市役所・みんなの森ぎふメディアコスモスの場所)

◆金華橋通りから見た、当時の病棟

Back
number

「うぶね」バックナンバーは病院ホームページで公開中です▶

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/ubune.html>

岐大病院 うぶね

